

令和6年度決算がまとまりました

保険料収入増、医療費支出等減により4年ぶりに黒字を回復

7月18日に開催された第131回組合会において、当健保組合の令和6年度決算が可決・承認されましたのでお知らせいたします。

少子化が激化する日本 全世代で支え合う仕組みの構築が必須

日本の少子化は年々深刻化しています。厚生労働省が発表した「令和6年人口動態統計月報年計(概数)の概況」によると、昨年1年間に生まれた子どもの数は68万6061人でした。70万人を下回るというのは、統計開始以来、初めてのことです。出生数の減少は、将来の現役世代の減少を意味します。現在の日本の社会保険は、現役世代が高齢者を支える仕組みになっています。このまま少子化が進むと、超高齢社会の日本では現役世代の負担が増え続け、国民皆保険を維持できるか危ぶられます。そのため、全世代が能力に応じて負担し、支え合う仕組みを一刻も早く構築することが必要です。

少子化傾向を少しでも抑制するためには、子育て世代へのサポートが必要です。政府は来年度から「子ども・子育て支援金制度」を開始することを決めました。これは保険料と併せて徴収される納付金で、児童手当の拡充、妊娠婦のための支援給付などに充てられます。しかしながら、現時点での制度が有効であるかどうかは不透明です。

令和6年度 収支決算概要

健康保険

●収入

科目	決算額(千円)
みなさんと事業主から納められた保険料	2,507,142
健保組合が互いに出し合って助け合うための調整保険料	23,349
繰越金	47,000
繰入金	20,000
その他の収入	76,119
合計	2,673,610
経常収入合計	2,515,469

●支出

科目	決算額(千円)
病気やけがをしたときに健保組合が負担した保険給付費	1,303,160
高齢者の医療に使われた納付金	932,245
健康づくりに使われた保健事業費	105,694
健保組合が互いに助け合うための拠出金	23,246
その他の支出	50,679
合計	2,415,024
経常支出合計	2,391,253

介護保険

●収入

科目	決算額(千円)
みなさんと事業主から納められた介護保険料	243,858
繰越金	6,000
繰入金	1,000
雑収入	11
合計	250,869

●支出

科目	決算額(千円)
介護納付金	237,305
介護保険料還付金	40
合計	237,345

※介護保険第2号被保険者たる被保険者等

新規事業についてのご案内

健康管理アプリ グッピーヘルスケア

対象者 18歳以上の当健保組合被保険者および被扶養者
※任意継続者は除く

- 歩数・体重・食事・睡眠・血圧・腹囲などの健康管理機能を搭載!
- 毎日の健康活動を記録し、目標を達成するとポイントが貯まる!
- 貯まったポイントでAmazonギフトカードが当たる抽選に参加できる!

参加方法 スマートフォンで専用アプリをダウンロードし、登録してください。

詳細につきましては、当健保組合ホームページまたは事業所担当者にご確認ください

黒字回復の要因は
保険料の増加と保険給付費の減少

当健保組合の令和6年度決算は、収入総額26億7361万円、支出総額24億1502万円、差引2億5859万円になりました。実際の財政状況の指標となる経常収支でみると、1億2422万円の黒字で終了することができます。

収入面では、健保組合の財源の柱となる保険料が前年度決算比2億7839万円増加の25億714万円となりました。これは、保険料率の変更に加え、標準報酬月額・標準賞与額が増加しました。

黒字回復の要因は
保険料の増加と保険給付費の減少

当健保組合の令和6年度決算は、収入総額26億7361万円、支出総額24億1502万円、差引2億5859万円になりました。実際の財政状況の指標となる経常収支でみると、1億2422万円の黒字で終了することができます。

支出面では、みなさんが病気やけがをしたときの医療費や、各種給付金に使用された保険給付費が同比1435万円減の13億316万円となりました。新型コロナウイルス感染症が流行した令和5年度以前に比べ、感染状況が落ち着いたためと考えられます。また、納付金は同比3673万円増の9億3225万円になりましたが、保険料の増加に加え保険給付費も減少しました。そのため、納付金が増加した分を補うことことができました。

その後も黒字を維持するためには
みなさんのご協力が必要です

先にお伝えしたとおり、加速する少子高齢化により、全国の健康保険組合を取り巻く財政状況は、依然として厳しいままです。このようななか、当健保組合は、みなさんとご家族の健康を支えるため、これからも効果的・効率的な運営実施に努めてまいります。みなさんにおかれましても、ご自身とご家族の健康増進と医療費の適正化にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

少子化が激化する日本
全世代で支え合う仕組みの構築が必須

日本の少子化は年々深刻化しています。厚生労働省が発表した「令和6年人口動態統計月報年計(概数)の概況」によると、昨年1年間に生まれた子どもの数は68万6061人でした。70万人を下回るというのは、統計開始以来、初めてのことです。出生数の減少は、将来の現役世代の減少を意味します。現在の日本の社会保険は、現役世代が高齢者を支える仕組みになっています。このまま少子化が進むと、超高齢社会の日本では現役世代の負担が増え続け、国民皆保険を維持できるか危ぶられます。そのため、全世代が能力に応じて負担し、支え合う仕組みを一刻も早く構築することが必要です。

被保険者1人当たりでみた主な収支決算(健康保険)

収入合計 560,036円

健保組合が互いに出し合って助け合うための調整保険料 4,891円 (0.9%)

みなさんと事業主から納められた保険料 525,166円 (93.8%)

繰越金 9,845円 (1.8%)

繰入金 4,189円 (0.7%)

その他の収入 15,944円 (2.8%)

支出合計 505,870円

健康づくりに使われた保健事業費 22,140円 (4.4%)

病気やけがをしたときに健保組合が負担した保険給付費 272,970円 (54.0%)

その他の支出 10,616円 (2.1%)

高齢者の医療に使われた納付金 195,275円 (38.6%)

健保組合が互いに助け合うための拠出金 4,869円 (1.0%)

※四捨五入のため、一部合計の合わない場合があります